

第37回 鹿児島県PTA連合会

「小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校PTA広報紙コンクール」審査評

1 総合所見

- (1) コロナが5類に移行し、各学校のPTA活動も、元に戻ってきた。それに伴って、広報紙コンクールへの出品数の減少にも歯止めがかかった。小学校・義務教育学校・高等学校は、昨年度に引き続き、応募校が増加したのは喜ばしいことである。
- (2) 全体的に、テーマ性のある紙面づくりをして、PTA活動活性化のための広報紙づくりへの意欲と努力が感じられる。見出しや色使い、レイアウトなど工夫されて、読みやすい広報紙が多くなった。
- (3) コロナ下においては、広報紙の発行も、年間1号から2号発行という学校が多かった。しかしながら、本年度は、1年間に、2号から3号以上発行した学校がほとんどであった。内容も充実しており、いつまでも大切に保存しておきたいものが、多くあった。
- (4) 小学校では、保護者が知りたい教育情報をテーマにした紙面づくりが目を引いた。中には、学習定着度調査の結果をもとに、どのようにして学力向上を図ったかを指導者にインタビューしている学校もあった。web版の学校が2校あったが、その良さが発揮され、発行回数も多く、タイムリーな記事を扱い、画像をふんだんに掲載し、その特性を活かしていた。
- (5) 中学校は、どの学校も、紙面づくりに工夫を凝らし、写真も効果的に活用していた。写真を活用する際、カラーとモノクロを併用し、それぞれを使い分けることで、面白さを出していた。また、時季を得たアンケートを実施し、読み手の興味・関心を引く話題を取り上げている学校が目についた。
- (6) 県内に、義務教育学校が増えてきた。そういう中、9年間の学校教育の良さと特長を生かした紙面づくりを考え、児童生徒の成長の様子が見てとれる記事は、大変興味深く、面白く読むことができた。
- (7) 高等学校、特別支援学校は、応募校も増え、質の高いものが多く、選考に苦慮した。審査の際、学校（児童生徒）の様子だけでなく、PTA活動がきちんと伝わっている新聞ということを重視した。また、スマートフォンの利用実態調査や昼食（お弁当・学食・購買部）事情など、保護者が知りたい情報を特集している記事は、目を引いた。その他、保護者の知りたいことをリサーチし、それを記事にしている広報紙も多く見られた。
- (8) 全校種に渡って、写真撮影の技術も向上し、生き生きとした児童・生徒の表情、素敵なアングルのものが多くなった。
- (9) 県PTA広報紙担当者研修会・PTA広報紙コンクール、県内各地での広報紙研修会の開催により、紙面の充実と質の向上が図られているのは喜ばしいことである。

2 今後の課題（留意してほしいこと）

- (1) 年間テーマ・年間編集計画等を策定し、計画的に取材、編集を行ってほしい。
- (2) 文字の大きさや書体、濃淡、色使いなど、基本的なことに気をつけてほしい。
- (3) 広報紙で取り上げたアンケート結果を、PTA活動の改善に役立てていただきたい。
- (4) 編集後記があると、責任の所在が明らかになるとともに、新聞作成の意図やこだわり、苦労などが伝わってくる。
- (5) 今後も、他校の優れた広報紙を参考にしたり、広報紙担当者研修会に参加したりして、PTA広報紙の内容の向上とPTA活動の充実を図っていただきたい。